

児童・思春期・青年期の当院での診療ガイドライン

A. 乳幼児期のこどもが呈する基本的徴候学的特性の要素

1. 妊娠期間中

- ・ 初期:3ヶ月まで
- ・ 中期:7ヶ月まで
- ・ 後期:9ヶ月まで:胎動の程度:激しい・普通・少ない及び「しゃっくり現象」の質
- ・ 臨月期:陣痛の質及び破水状況
- ・ 出産状況:①極小未熟児(g) ②陣痛促進剤 ③難産(時間)④帝王切開 ⑤胎盤剥離
- ・ NICU :(日間、 ヶ月間)

2. 妊産婦高血圧症候群

- ・ 血圧
- ・ むくみ:腎機能不全
- ・ 嘔吐(つわり: ヶ月間)
- ・ 倦怠感
- ・ 二次性の抑うつ及び不安の程度

3. 環境因

- ・ 感情表出:高い・普通・低い
- ・ 胎児への意識:高い・普通・低い
- ・ DV 型の夫婦関係
- ・ 妊産婦への過剰ストレス型の過干渉型環境
- ・ 妊産婦へのいたわりの低い過剰負荷環境

4. 奇形及びその他の機能性疾患

- ・ 循環器系
- ・ 消化器系
- ・ 胆道系
- ・ 停留睾丸
- ・ 骨代謝の問題
- ・ アレルギー
- ・ アトピー
- ・ 喘息
- ・ 成長ホルモン
- ・ 甲状腺機能
- ・ 熱性痙攣
等

5. 初期発達

- ・ 母乳(月 月間)
- ・ 離乳状況: 開始(月 月目)、終了(月 月目)
- ・ 言葉の発達: 喃語の質、擬態語の質、擬声語の質、模倣音の質
- ・ 運動発達: 筋トーンの質、ハイハイ、協応運動(視覚的にものを捉え手=立体覚と指で操作する)、抗重力姿勢、探索動作、協調運動
- ・ 初歩(1歳 6 月前か否か?)
- ・ 愛着行為や人見知り(=8ヶ月不安=母親を統合的に対象化=母親が幼児自身を統合化するために必要不可欠な対象となる=鏡像段階の始まりとも考えられる)
⇒1次不安=母子分離によって引き起こされる情動の亢進に対する防衛の為、特殊な対象への拘りや自己を感覚的に保障する環境や在り方へ固執する⇒対人関係・対人交流の質の問題や幼児の抑うつ型の衝動行為へ繋がる
- ・ オムツ離れ(才 月 月目)

6. 言語発達

- ・ 喃語の時期から一音節単語と指差し行為
- ・ 二音節単語と擬態語と擬声語と真似
- ・ 二語文と助詞の使用の有無と確認行為
- ・ 三語文と行動と現象の一致の有無
- ・ 受容性言語と模倣言語の有無

7. 運動発達

- ・ 指先での協応運動機能の精緻さの有無
- ・ グラスピングの消失と手のひらの活用(立体覚の成長)
- ・ 寝返り
- ・ ハイハイ
- ・ 初歩
- ・ 起き上がり
- ・ 利き手・利き足・利き目
- ・ 跳びはね行為と模倣運動(18 月)
- ・ 協調運動;物を掴む・投げる・走って戻る・線上歩行の有無等
- ・ 側性化の有無;左右差の機能分化

8. 遊び方及び対人関係の特徴

- ・ 0~1 才: 独りで遊ぶが、相手をしてやると喜ぶ。
- ・ 1~2 才: 大人に相手をしてもらう遊び。
- ・ 2 才: ごっこ遊びが始まる。
- ・ 3 才: 2 人の子どもで遊ぶ。
- ・ 4~5 才: 約束事のある遊び、集団で行なう遊びが可能となる。

B.学童期、思春期及び青年期に診られる徴候学的症状

1. 体に現れる症状

痛み:頭痛、腹痛、胃痛、腰痛、眼痛、四肢の疼痛

感覚:頭がボーっとする、めまいがする、頭が空っぽ、脳が変、目がかすむ、目が見えない、耳が聴こえにくい、
感覚麻痺(皮膚接触・味覚)、感覚過敏(皮膚接触・聴覚)、幻聴、幻視、体感幻覚、幻嗅、幻味

運動:多動、不穏、歩行障害、振戦

ストレス:脱毛、アトピー、喘息、便秘、下痢、チック、(抜毛)etc

体温:微熱、一過性発熱

尿・便意:頻尿、尿閉、残尿感、残便感

消化器:腹痛、下痢、便秘、嘔吐、吐き気、ゲップ、胸焼け

循環器・呼吸器:動悸、徐脈、頻脈、息切れ、息苦しさ、過喚起

身体状態:疲れ、倦怠感、虚脱感

2. 行動に現れる症状

行為:脱抑制、自殺企図、衝動性破壊、いじめ、非行行為(万引き・放火 etc)、動物虐待、暴力、反抗、挑発、挑戦、ストーカー、手首自傷、抜毛

強迫:清拭、儀式的行為(順序・接触)、確認、手洗い、etc

食:過食、拒食、嘔吐、不食

嗜癖:薬(鎮痛剤、ブロン液、カフェイン、睡眠導入剤、抗不安剤、下痢 etc)、脱法ハーブ、シンナー、覚せい剤、大麻、コカイン、アルコール etc、携帯電話、スマホ(Line, Face book etc)、パソコン(インターネット)、ゲーム、ギャンブル(パチンコ etc)

性:性的逸脱(不特定多数)、援助交際、出会い系サイト、風俗、性犯罪

生活習慣:不登校、引き籠もり、怠惰、怠学、夜間外出、昼夜逆転、無断外泊、家出、無関心、無為、自閉

3. 思考に現れる症状

強迫観念:暴力、破壊、殺人、自殺、破壊、確認 etc. . .

思考観念:誇大的万能、超能力、神秘、宗教、宇宙、哲学、数学、非現実、非合理、非論理、支離滅裂、理想主義、厳格、道德主義、嫉妬、自己中心、自殺念慮、被害関係念慮、迫害、絶望、幻滅、自己蔑視、罪悪感

その他:集中力低下・制止・夢想・空想・思路障害・妄想

4. 気分に現れる症状

うつ:落ち込み、沈うつ、憂鬱、苛立ち、日内変動、焦燥不穏興奮

躁:気分の高揚、至福感情、精神運動興奮、多弁

5. 不安に現れる症状

分離不安、将来、心気(病気)、パニック、失敗、身体、消滅、崩壊、死、恋愛

6. 恐怖に現れる症状

動物、昆虫、場所(高所、閉所、広場)、尖端、人間、異性、不潔、醜醜恐怖、雷

7. 対人関係に現れる症状

消極的、受動的、内向的、緊張、恐怖、集団恐怖、自己中心的、脱抑制、赤面、体臭、視線

8. 意識に現れる症状

失神、もうろう、痙攣、夢遊、夢幻、解離、健忘

9. 睡眠に現れる症状

入眠困難、過眠、不眠、中途覚醒、嗜眠

C. 精神病理的思春期の理解

1. 理解力と役割と責任は大人扱い、待遇は子ども扱い

① 役割と責任

a. 大人社会との断層

- ・ 家族生活、社会生活での基本的な役割意識と責任の自覚
- ・ 世代間ギャップや価値観の差などによる世代間葛藤
- ・ 喫煙、飲酒など制限される満足と要求される社会的責任

b. 自己矛盾

- ・ 課題を達成し大人や他人に認められたい欲求
- ・ つまらぬ、面白くない、嫌で不快なことを避けたい欲求
- ・ 超自我とエスの葛藤⇒神経症的葛藤

c. 押し付けられた社会の仕組み

- ・ 望んでもいない、納得できない不完全な仕組みの受容の強制
- ・ 達成感の希薄さによる不安

② 置いてきぼりの体

a. 第二次性徴

- ・ 女の子は、子供を産み母親になれる身体の獲得
- ・ 男の子は、自分や他人を守ることが出来る力を備えた体の獲得

b. 恥じらいと他者への関心

- ・ 身体機能の変化と受容への戸惑い
- ・ 幼児、児童期まで慣れ親しんだからだとの離別
- ・ 自分の身体変化への戸惑いと他人の体験への関心

C. 性の目覚め

- ・ 異性への健全な関心⇒性的欲求の健康な意識と異性という対象選択
- ・ 乳幼児期型親への願望充足的接近の放棄
- ・ 性的興奮の健全な受容⇒象徴化された意味として、身体と性を統合して受容する
- ・ 性的虐待による反復型の歪んだ異性との関係

d. マスターベーション

- ・ 精神と身体の統合体験
- ・ 性的ファンタジーと身体的興奮の相関性

- 健全な性化された体験
- 性的ファンタジーの肥大化と性感領域の過剰興奮;嗜癖化、空想化、行動化
- 快原則に支配された幼児的満足への退行

③ 強く誇らしい私

- a. 不確かさ
 - ・ 理解する、分かるということと分からなさの同居状況
 - ・ 理想とした基準には到達不能
 - ・ 妥協的満足への安住と不安→達成感の希薄さ
- b. 競争と挫折
 - ・ 自分自身との戦い⇒心理的葛藤
 - ・ 限界と可能性⇒個別な方法の発見による差別化と不安
 - ・ 上には上が、下には下がの中途半端な位置づけ
- c. 信じられない私
 - ・ 自己不全感と合理的な自分⇒神経症化
 - ・ 自分への否定的評価⇒抑うつ傾向
 - ・ 観念と行為の亀裂⇒言行不一致、有限不実行

2. 理想と現実

① 自己受容

- a. 万能的自分への憧れ
 - ・ 強くたくましく何でもこなせる自分へのこだわり
 - ・ 他人よりも秀でた自分への希求
 - ・ 他人に認められるアイドル的自分
- b. 世の中がおかしいの二重の意味
 - ・ 客観的な物事に対する理解と自分の考え方の確立
→肯定的な自分と認めがたい自分の統合
 - ・ 客観的な物事に対する理解と批判的在り方
→全てを自分の正当化につなげ認めがたい自分を否認
- c. みじめな自分
 - ・ 分からないこと出来ない事を抱えあがいている自分
 - ・ 苦しさを抱え見えないゴールを目指して進む不確かな自分
 - ・ 限界を感じ、所詮この程度の自分でしか在りえない自分

② 断念

- a. 不可能への出会い
 - ・ 観念の世界と実存的世界の亀裂
 - ・ 一日は二十四時間、体は一つ
 - ・ 身体能力の限界と学習能力の限界
 - ・ 所詮このような私でしかない
→自分流の発見への入り口

- 可能な限り可能性を獲得するための限界と発見
- b. こんなはずじゃなかったシリーズ
 - ・ 頑張っただけの子をやれば、きっと望むものが得られる
 - 幻想の崩壊
 - ・ 苦しいことばかり、良いことは何もない
 - 何のために生きるのか？
 - 幼児的世界との決別への過程⇒失った幼児的心地よい世界は、もう二度とない
 - 必死に得ようとするものは、すでに失ってしまっていた対象
- c. 家族・親への非難と幻想的可能性へのしがみつき
 - ・ 自分の理想が実現不能な理由は、家族や親が理想的なものではないからだ
 - ・ 自分の理想が実現する為に、家族や親は可能性を保障すべきだ
 - ・ 上手くいかないのは自分のせいではなくて、家族や親が悪いからだ
- d. 死への憧れと放棄
 - ・ 自分が望む満足が得られないならば、何をやっても意味がない
 - ⇒理想＝幼児的満足
 - ・ 自分自身でも他人からも自分を評価できぬ理想的ではない自分は、死んだ方がまし
 - ⇒他者からの不承認＝幼児的甘えの不在＝死ぬしかない

3. 社会病理からの被爆

① 物質的満足

- a. 幼児退行的満足
 - ・ 所有欲を煽る情報の氾濫
 - ・ 子供を消費者に絞った産業の存在
 - ・ メディアにさらされ洗脳化された習慣性
 - ・ 欲しいもの、好きなもの、やりたいことはお金があれば何でも可能
 - ・ お金万能的な大人社会と社会的スキャンダルへの感受性
 - ・ 社会的権威や経済力と物質的満足の相関性
- b. 短絡的方法
 - ・ コミュニケーションツールの多様化とスピード化
 - いつでも、どこでも、関心の対象を、思いのままに
 - 合理的利便性と情報への被支配性
 - 探索行為と確認強迫のパターンの行動様式
 - ・ 情報化社会の効率性と社会生活感覚への影響
 - 社会生活全般に影響している行動様式の変化
 - ネットワークシステムに順応した物資調達行動
 - 生活運動量の減少と肥満化
 - ・ メディア脳化と反射型行動パターン
 - 抑制機能(全頭前野の活動)の低下と衝動性のコントロール不全
 - プログラムに組み込まれた受動性の行動パターン
 - 再現のない探索行動とストレス肥大の現象
- c. 快or不快

- 環境から及ぼされる刺激量への適応不全⇒不快刺激耐性の低下
- 身体化反応及び回避行動又は行動化⇒悪性緊張処理不全症候群
- 葛藤耐性の低下
- 待機時間と不快
- 自我の脆弱化

② 神経性的特性

a. 否認

- ・ 嫌な現実を認めることを拒否する
 - 叱られる恐怖心から言い訳をする
 - 責任を取らされる不安から言い逃れをする
 - 他人から否定される不安から目の前の現実を拒否する

b. 合理化

- ・ 真実に対する防衛葛藤の二次的偽装
 - 現実に適した素直な態度、行為、考え、感情を示すことが出来ない
 - 理にかなった一貫性のある人間的で、道徳的な説明をする
 - ⇒妄想においても表れ、体系化されうる

c. 取り入れ

- ・ 他人の意見や考えや価値観を自分に取り込む
 - 他の人のようになりたいという願望
 - 模倣による没自己化⇒自分がない状態
 - 自己形成へのプロセス

d. 置き換え

- ・ 問題行動
 - 本来向けられるべき対象に感情や態度を示せず、他の対象に向けてしまう
 - 怒りをものや人にぶつけてしまう

e. 反動形成

- ・ 危険な願望が表出することを防ぐ
 - 好きなのに嫌いと言う
 - 仕返しを恐れて、嫌なのに好意を示す態度を見せる
- ・ 集団心理への影響
 - 集団によるいじめといじめ対象になる恐怖心
 - 異性に対する関心と関心とは正反対の蔑視的態度

f. 退行

- ・ 発達段階の逆行
 - 幼兒的な興味や満足様式への逆戻り
 - 直面する現実から及ぼされる問題や葛藤に自我が耐えられない状況で起こる
 - 病気や休みの後の不登校

D.軽度発達障害についての補足

1. 表出性・受容性言語の問題

a. コミュニケーション障害

- ・ 単語、特に名詞は獲得しているのので、人が話している内容をある程度理解することは出来るが、漠然とした理解に止まる
- ・ ある程度の理解は、経験に基づいた視覚的記憶体験に委ねられている場合に良好に発揮でき、特に個人的な関心の領域に限定されるとかなり豊かである
- ・ あたかも外国語を聴取しているかのごとく表現が聞き取れなかったり、文章構成の基本である文法構造が不備なことやある言葉に気を取られその意味に引っかかり、その結果、文脈や言葉のニュアンスが読み取れない
- ・ いつ、どこで、誰が、何を、何のために、どうして、どうなったかを組み立てて他人に話せないし書けない⇒時間、場所、主語、対象、目的、方法、結果の要素的構成の困難さ
- ・ 意味の流れや動きの変化を推論により事前に推測することが困難なために状況を読めない
- ・ 言語的レベルの意味が的確に理解されていない→漠然とした感覚的周辺理解に止まっている
- ・ 能動的言語活動の困難さ→受身的聴取的態度が優勢
- ・ コトバによるキャッチボールが不可能
- ・ 状況を把握し分かりやすい枠組みを保障してくれる目上である大人や自らが状況を能動的に支配できる言語表現能力の拙さで、年少者との関係は比較的に良好

b. 対人関係障害

- ・ 視覚的に状況が流動的に変化する中で意味の流れを掴むことが困難(視覚過敏)なために、自分がどのよう振舞ったらよいか分からない
- ・ 聴覚的に話の内容として入ってきた情報を、三人以上になると上手く処理できず、話についていけない
- ・ 他人の共有している状況で自己感覚に揺らぎが生じ、悪性の緊張を抱え、自己の安全感を失いやすい⇒一人を好む
- ・ 思いついてしまったことや気になってしまったこと(思考観念)を自分の内に保留することが困難で、つい関係ないと思われる事を口走ってしまう
- ・ 禁止されている事や社会通念上口にしてはならないことを口にしてしまい、他人から顰蹙をかってしまう
- ・ 本音と建前、表と裏、内と外など日本に特有の文化的対人様式とコミュニケーションの特性への戸惑いがあり、理解することが困難⇒なぜそのような表現になるのか？が、謎になる⇒神経症化した発言に対する不可思議さと暴露傾向⇒他者の自己愛的課題への感受性による直接的表現

c. 衝動行為

- ・ 安定していた自分の感覚(自己感覚)や慣れて維持されていた考え(思考感覚)に揺らぎが生じたことにより、内的緊張及び興奮が高まりそのエネルギーを言語的方法により処理できない事によって、行為による手段しかその不快状況からの解放手段として成り立たない状況
- ・ 内的緊張興奮を高める(悪性表象)が目に入ったり、触れたり、臭ったり、味わあされたり、嫌なコトバを聞かされたりしたことで不安緊張興奮が昂進(悪性緊張)し行為によって、不快なエネルギーが放出される
- ・ トラウマ的体験による感覚野への過剰刺激を誘発する表象が原因で出現するパニック様の発作からの不穏状態

- ・ 自己肯定感及び自尊感情の低下による抑うつ状態が誘発する行為障害型の衝動行為
- ・ 不快、葛藤耐性の低さにより生じる不穏型行動パターン

2. 聴覚的短期記憶の問題

- a. 学習困難
- b. 状況認知の問題
- c. 集団生活の困難
- d. 忘れ物
- e. 不注意

3. 視覚的短期記憶及び同時処理の問題

- a. 学習困難
- b. 状況認知の問題
- c. 不器用
- d. 片付け困難
- e. 不注意
- f. 忘れ物

4. 運動発達、感覚調整の問題

- a. 多動⇒前庭感覚、固有受容覚の過少入力。周辺視野への過剰反応
- b. 不注意
- c. 衝動行為
- d. 協調性運動障害
- e. 状況認知の問題
- f. 対人関係の問題

5. 二次障害型抑うつ

- a. 自尊感情の低下
- b. 自己肯定感の低下
- c. 達成感の乏しさ
- d. 達成意欲の低下
- e. 対人緊張
- f. 対人恐怖
- g. 自己否定感
- h. 自信喪失
- i. 被害感
- j. 破壊衝動行為
- k. 不眠
- l. こだわり行為
- m. 自己放棄的投げやり行為